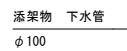
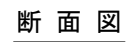


## 〔川向橋〕

S=1 : 250



### 注意事項

- ・本図面は既往資料及び現地簡易計測により計画している。  
詳細寸法は現地検測により確認する必要がある。
- ・補修範囲等は現地の損傷状況を再確認する必要がある。

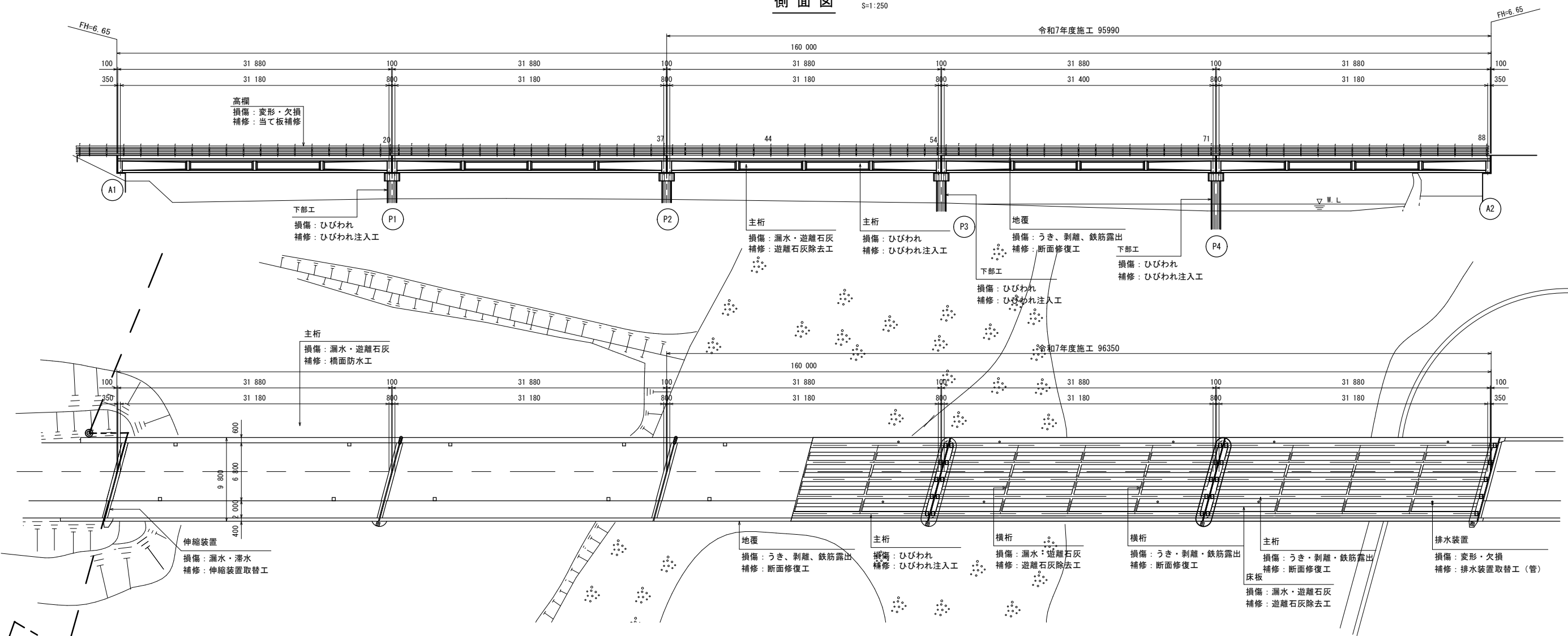
川向橋			
工事名	川向橋修繕工事		
図面名	橋梁一般図		
作成年月日	令和 7年 月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	1/18
会社名	株式会社 アリヤス設計コンサルタント		
事業者名	八 雲 町		

橋梁補修一般図

〔川向橋〕

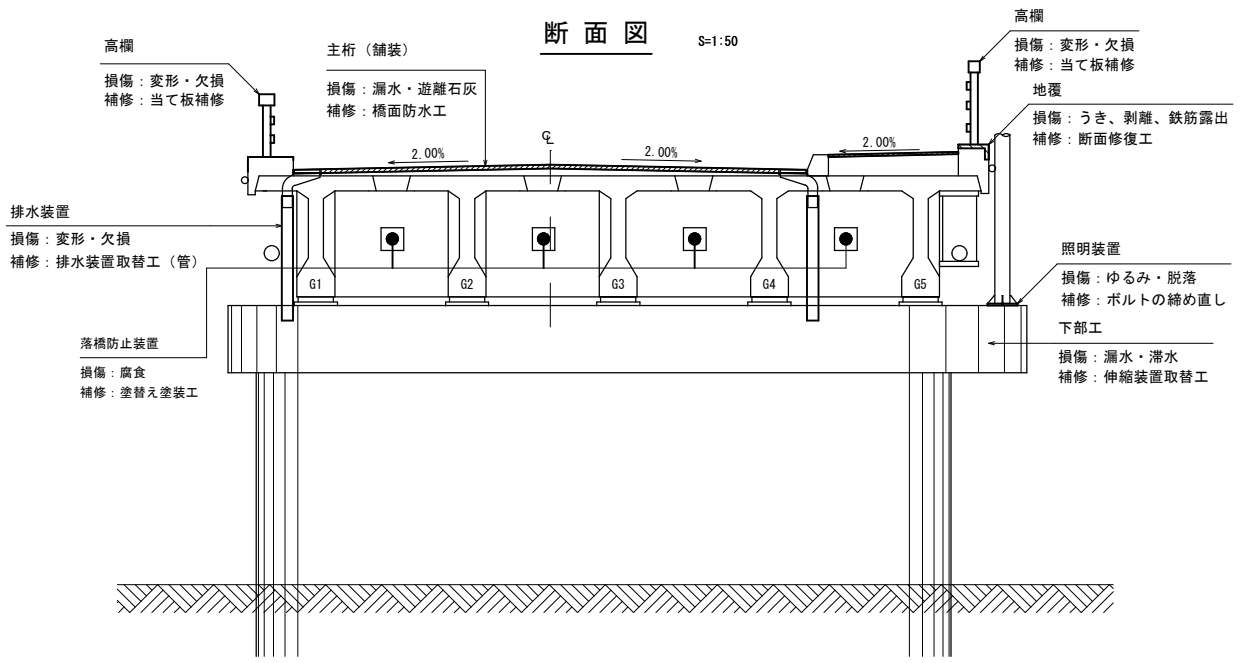
側面図

S=1:250



断面図

S=1:50



調査結果一覧

対象部位 (部材)		今回詳細調査結果			補修要否	補修設計方針 (案)	
		損傷度判定区分		健全診断			
上部工	主桁	うき・剥離・鉄筋露出	d	Ⅱ	要	断面修復工	
		ひび割れ	d	Ⅲ	要	ひび割れ注入工	
		漏水・遊離石灰	d	Ⅱ	要	橋面防水工	
	横桁	うき・剥離・鉄筋露出	c	Ⅱ	要	断面修復工	
		漏水・遊離石灰	d	Ⅱ	要	遊離石灰除去工	
	床版	うき・剥離・鉄筋露出	d	Ⅱ	要	断面修復工	
下部構造		漏水・遊離石灰	d	Ⅰ	要	遊離石灰除去工	
		ひび割れ	c	Ⅱ	要	ひび割れ注入工	
		—	—	—	—	—	
支承部		変色・劣化	c	Ⅰ	否	経過観察	
その他		伸縮装置	漏水・滞水	d	Ⅲ	要	伸縮装置取替工
		高欄・防護柵	変形・欠損	d	Ⅲ	要	当て板補修
		地覆	—	—	—	否	—
			うき・剥離・鉄筋露出	d	Ⅲ	要	断面修復工
		排水装置	変形・欠損	d	Ⅱ	要	排水装置部材取替工
			—	—	—	—	—
		舗装	舗装の異常 (ポットホール)	b	Ⅰ	否	舗装打換え工
		縁石	変形・欠損	b	Ⅰ	否	経過観察
		添架物	腐食	d	Ⅰ	否	経過観察
		落橋防止装置	腐食	c	Ⅱ	要	塗替え塗装工
照明装置	ゆるみ・脱落	d	Ⅱ	要	ボルトの締め直し		

※ 赤色はR7年度施工を示す。

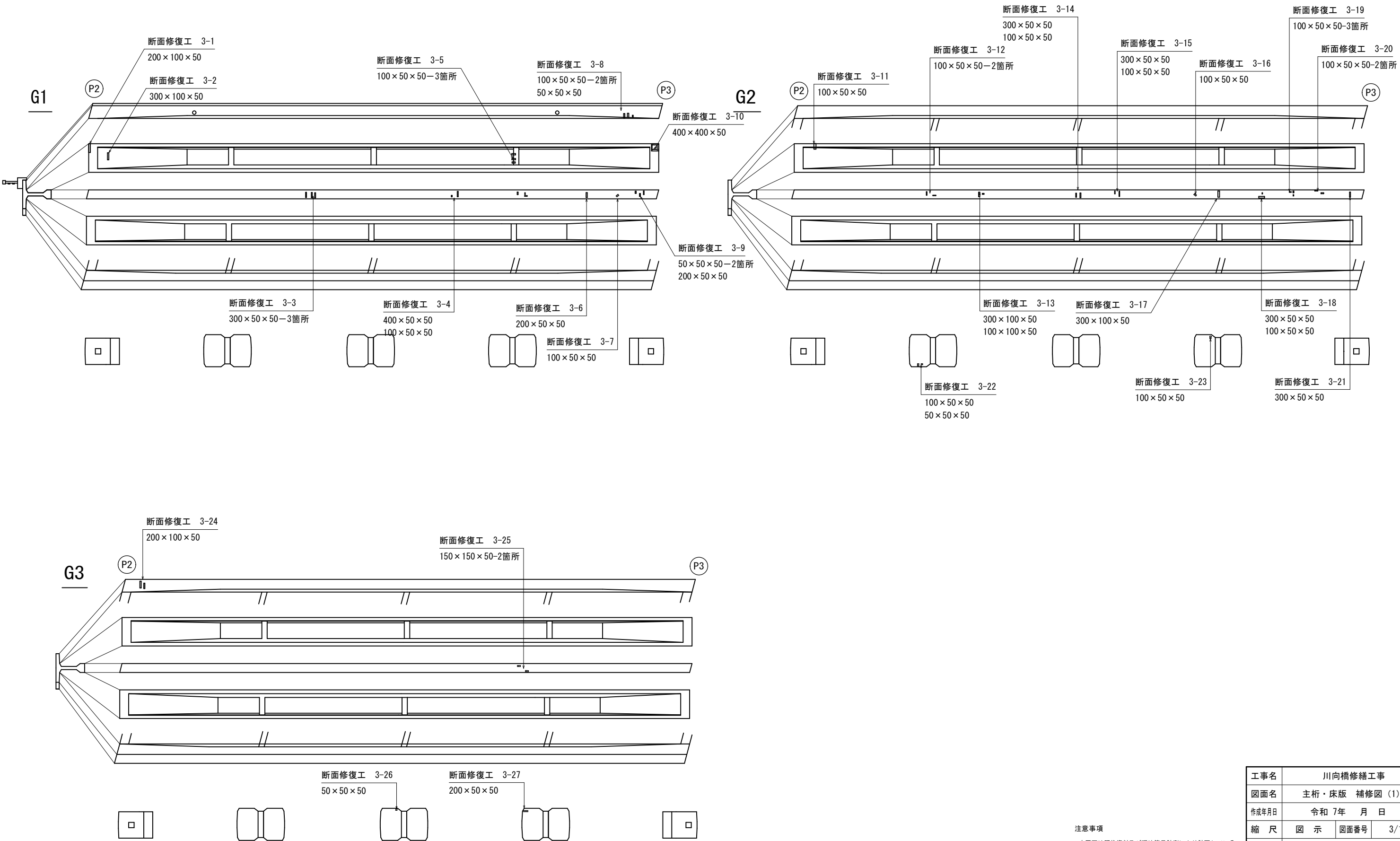
注意事項

- ・本図面は既往資料及び現地簡易計測により計画している。詳細寸法は現地検測により確認する必要がある。
- ・補修範囲等は現地の損傷状況を再確認する必要がある。

川向橋			
工事名	川向橋修繕工事		
図面名	橋梁補修一般図		
作成年月日	令和 7年 月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	2/18
会社名	株式会社 アリヤス設計コンサルタント		
事業者名	八 雲 町		

主桁・床版 補修図 (1)

第3径間



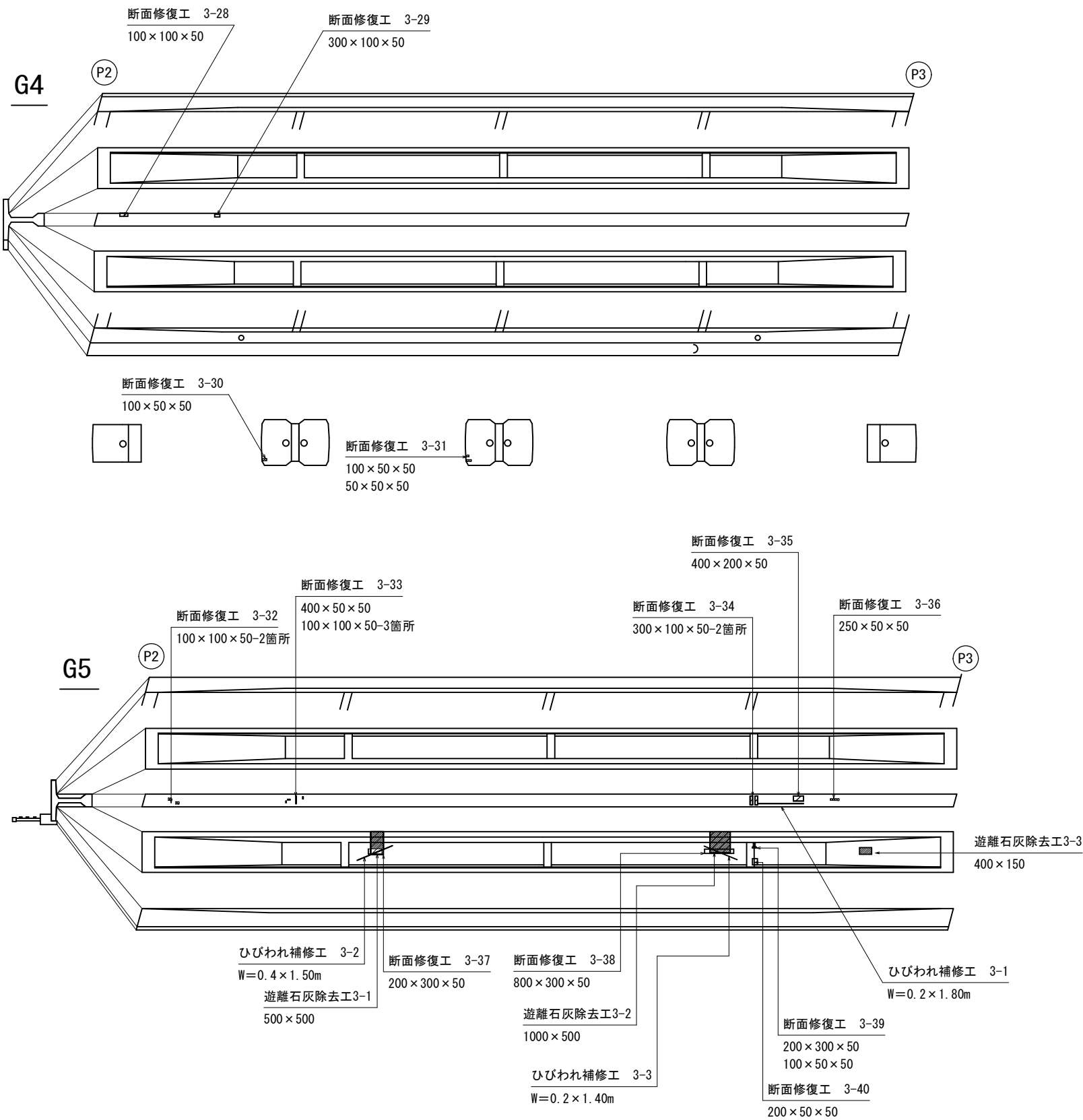
注意事項

- ・本図面は既往資料及び現地簡易計測により計画している。詳細寸法は現地検測により確認する必要がある。
- ・補修範囲等は現地の損傷状況を再確認する必要がある。

工事名	川向橋修繕工事		
図面名	主桁・床版 補修図 (1)		
作成年月日	令和 7年 月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	3/18
会社名	株式会社 アリヤス設計コンサルタント		
事業者名	八 雲 町		

主桁・床版 補修図（2）

第3径間



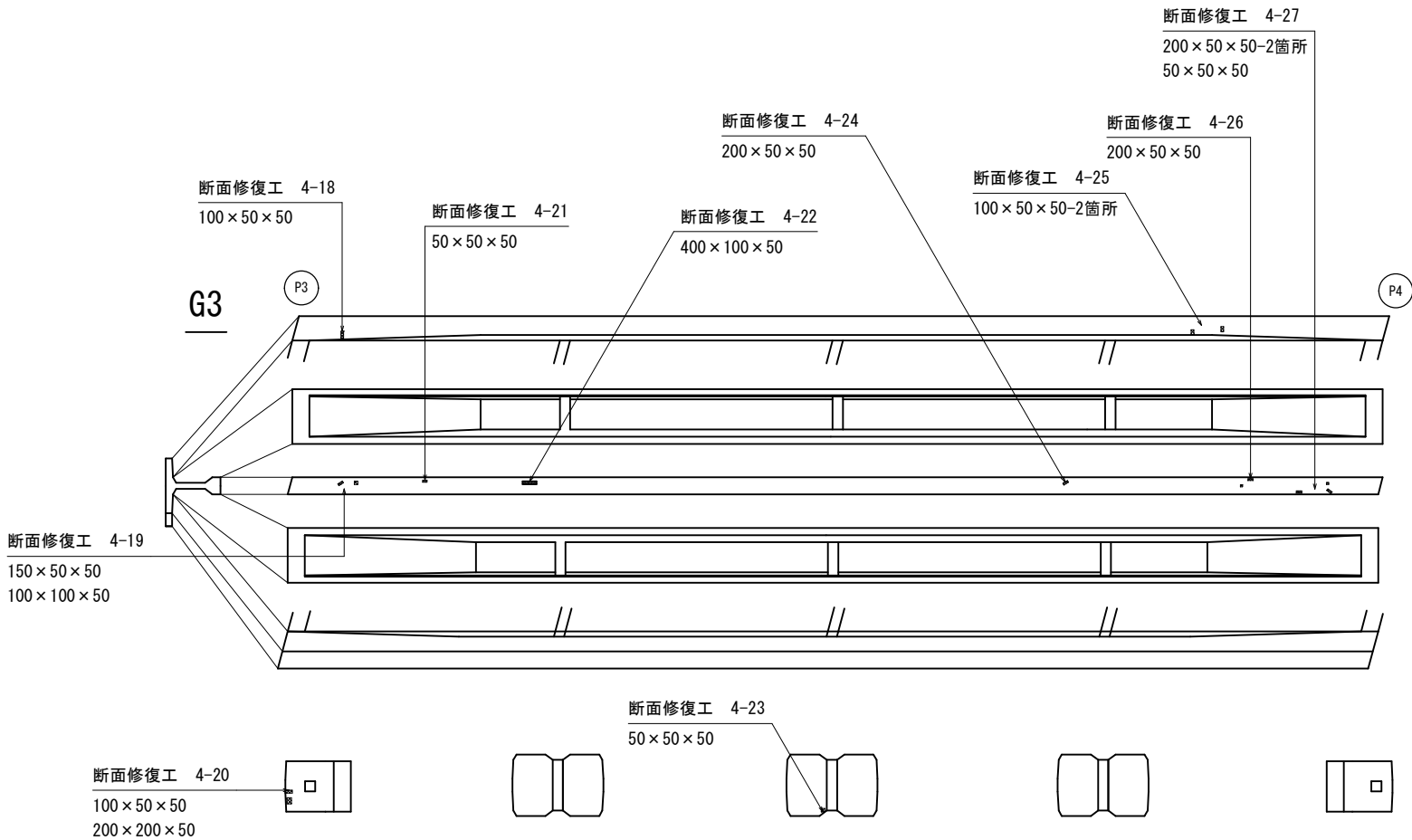
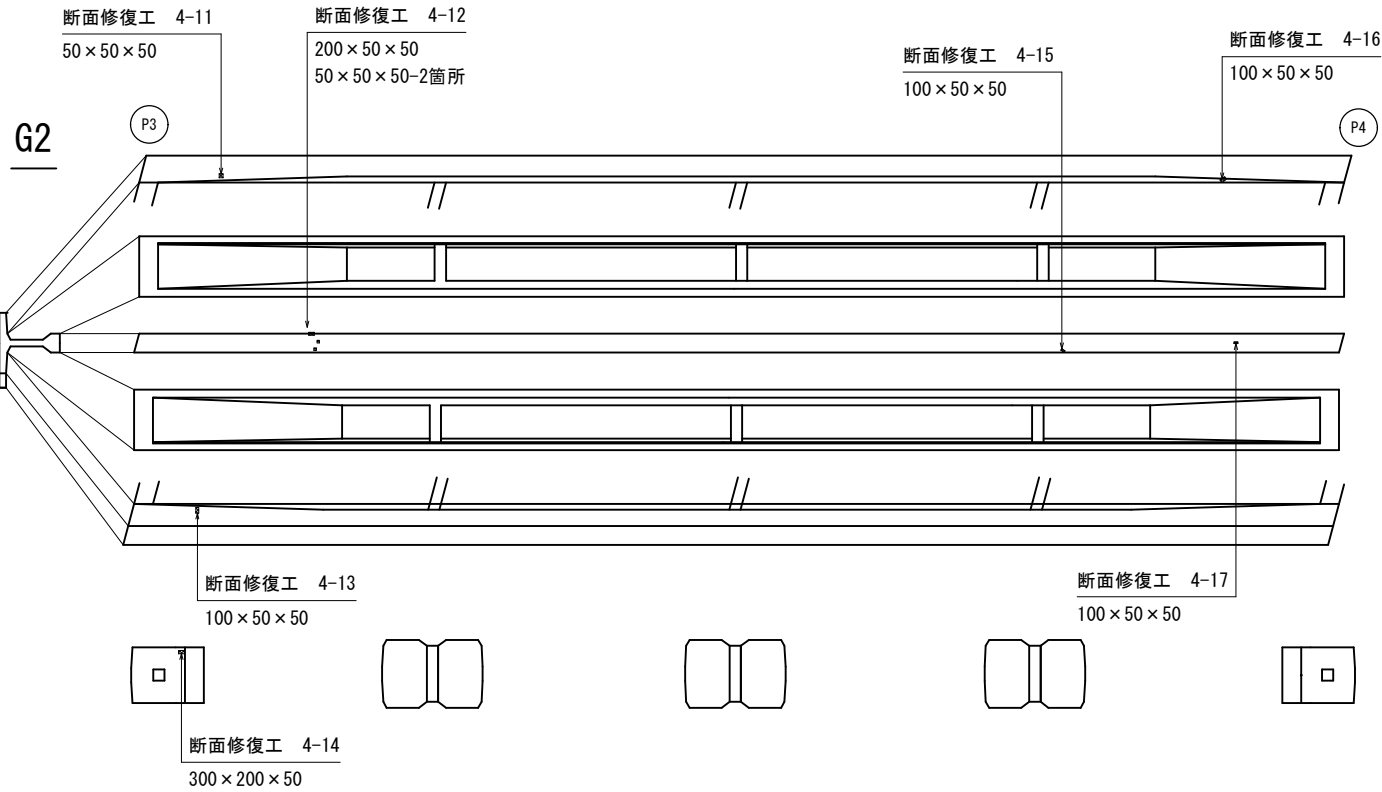
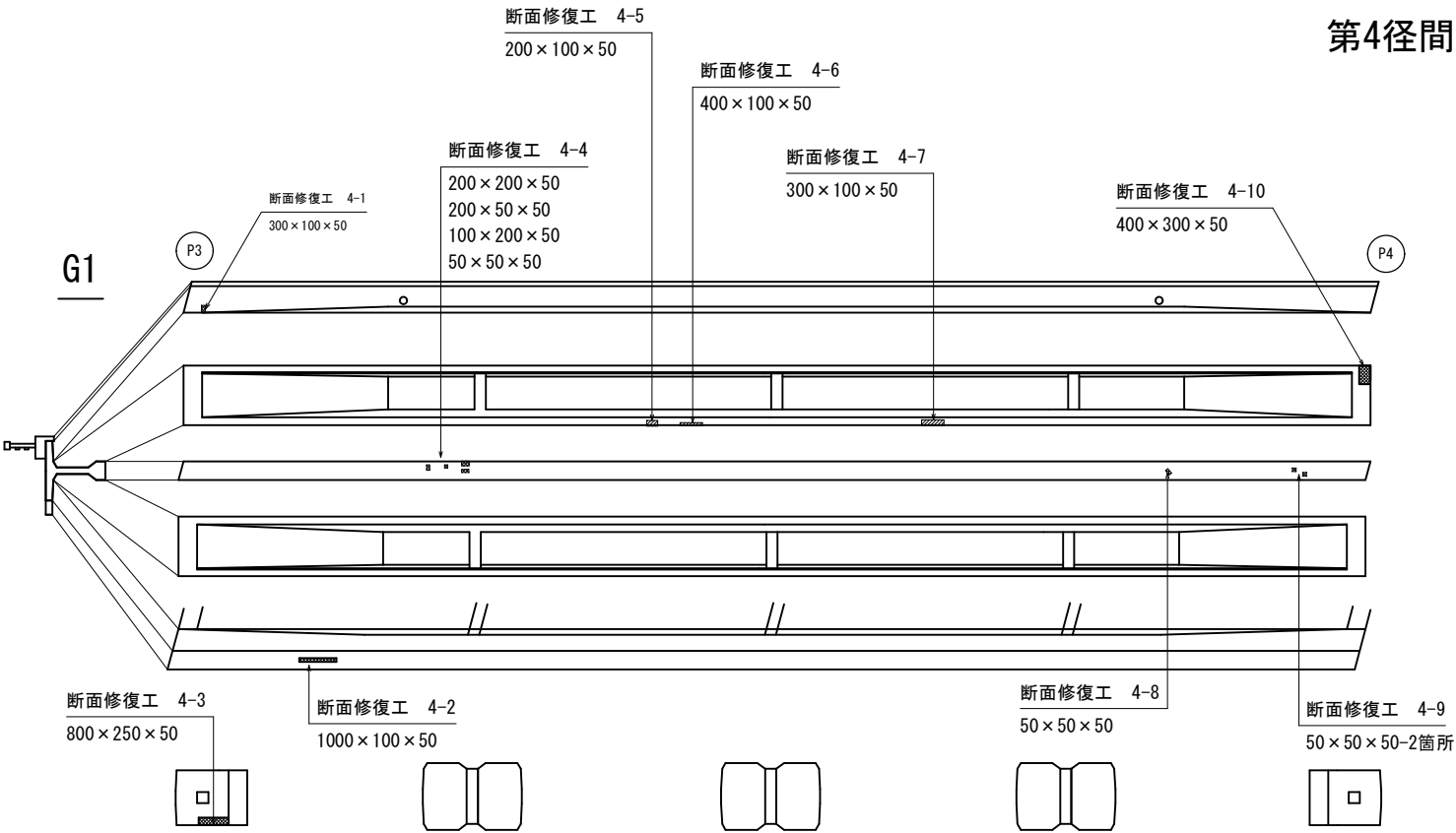
注意事項

- ・本図面は既往資料及び現地簡易計測により計画している。詳細寸法は現地検測により確認する必要がある。
- ・補修範囲等は現地の損傷状況を再確認する必要がある。

工事名	川向橋修繕工事		
図面名	主桁・床版 補修図（2）		
作成年月日	令和 7年 月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	4/18
会社名	株式会社 アリヤス設計コンサルタント		
事業者名	八 雲 町		

主桁・床版 補修図 (3)

第4径間

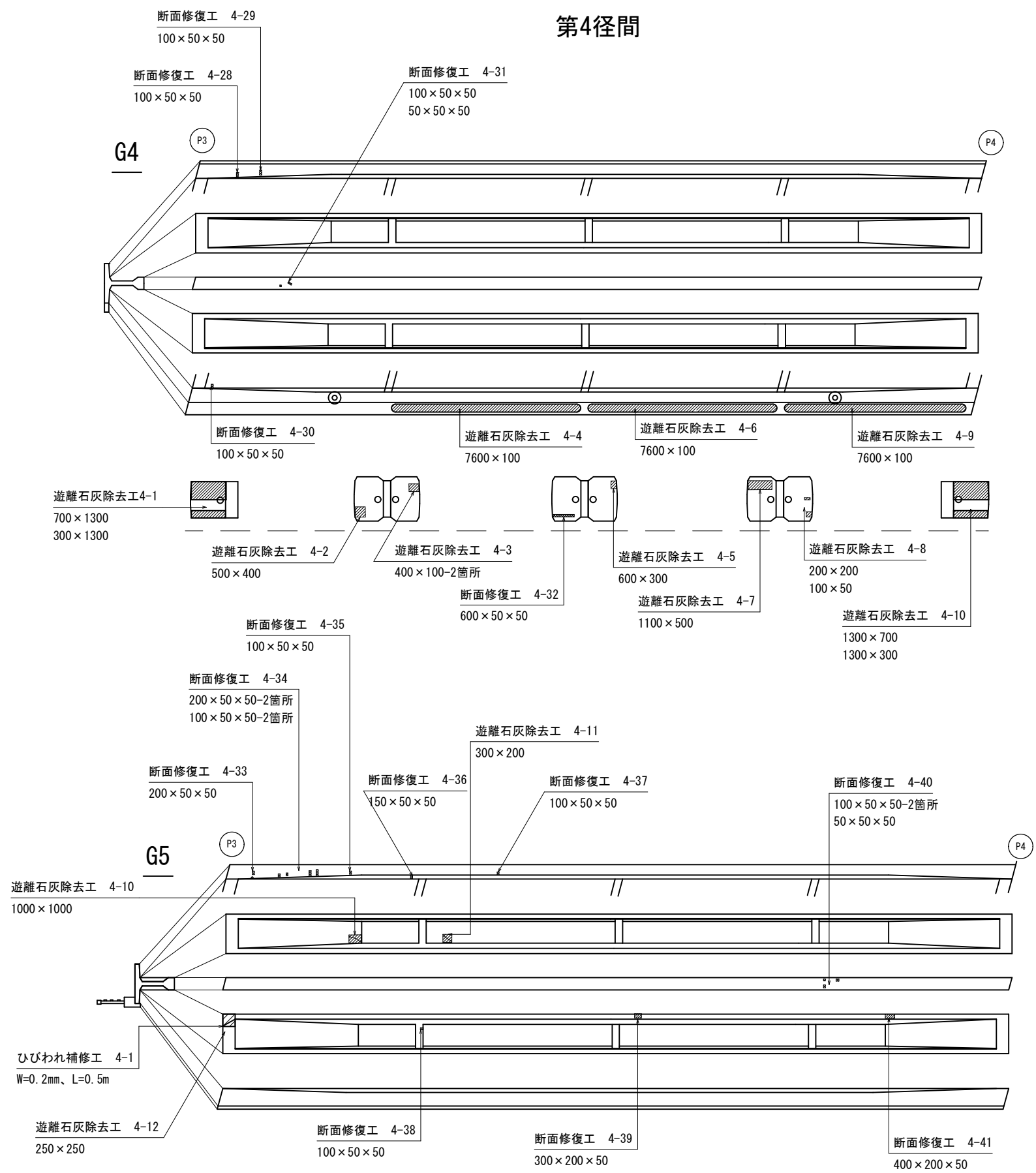


注意事項  
・本図面は既往資料及び現地簡易計測により計画している。  
詳細寸法は現地検測により確認する必要がある。  
・補修範囲等は現地の損傷状況を再確認する必要がある。

工事名	川向橋修繕工事		
図面名	主桁・床版 補修図 (3)		
作成年月日	令和 7年 月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	05-18
会社名	株式会社 アリヤス設計コンサルタント		
事業者名	八 雲 町		

主桁・床版 補修図（4）

第4径間

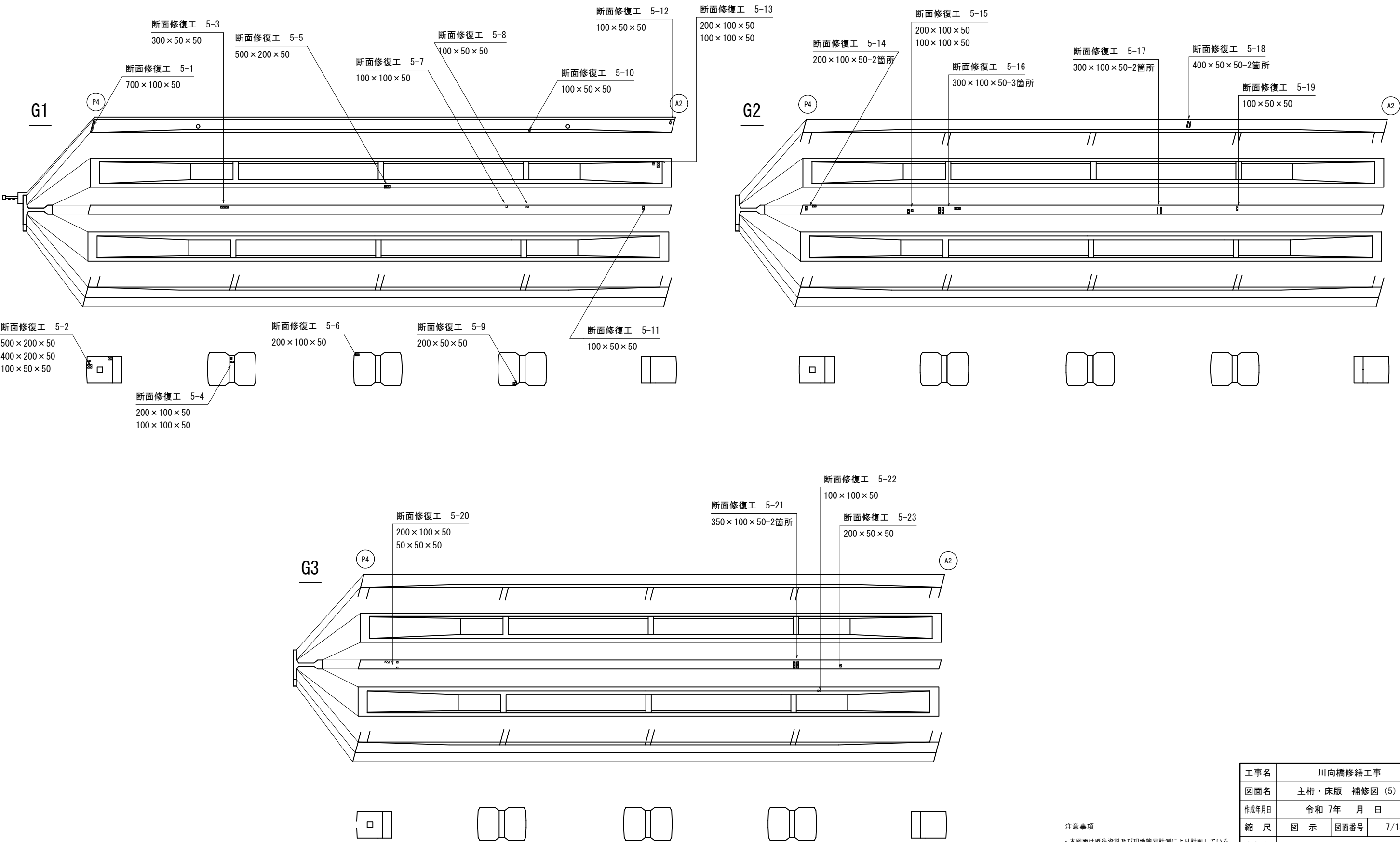


注意事項  
・本図面は既往資料及び現地簡易計測により計画している。  
詳細寸法は現地検測により確認する必要がある。  
・補修範囲等は現地の損傷状況を再確認する必要がある。

工事名	川向橋修繕工事		
図面名	主桁・床版 補修図（4）		
作成年月日	令和 7年 月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	6/18
会社名	株式会社 アリヤス設計コンサルタント		
事業者名	八 雲 町		

主桁・床版 補修図 (5)

第5径間



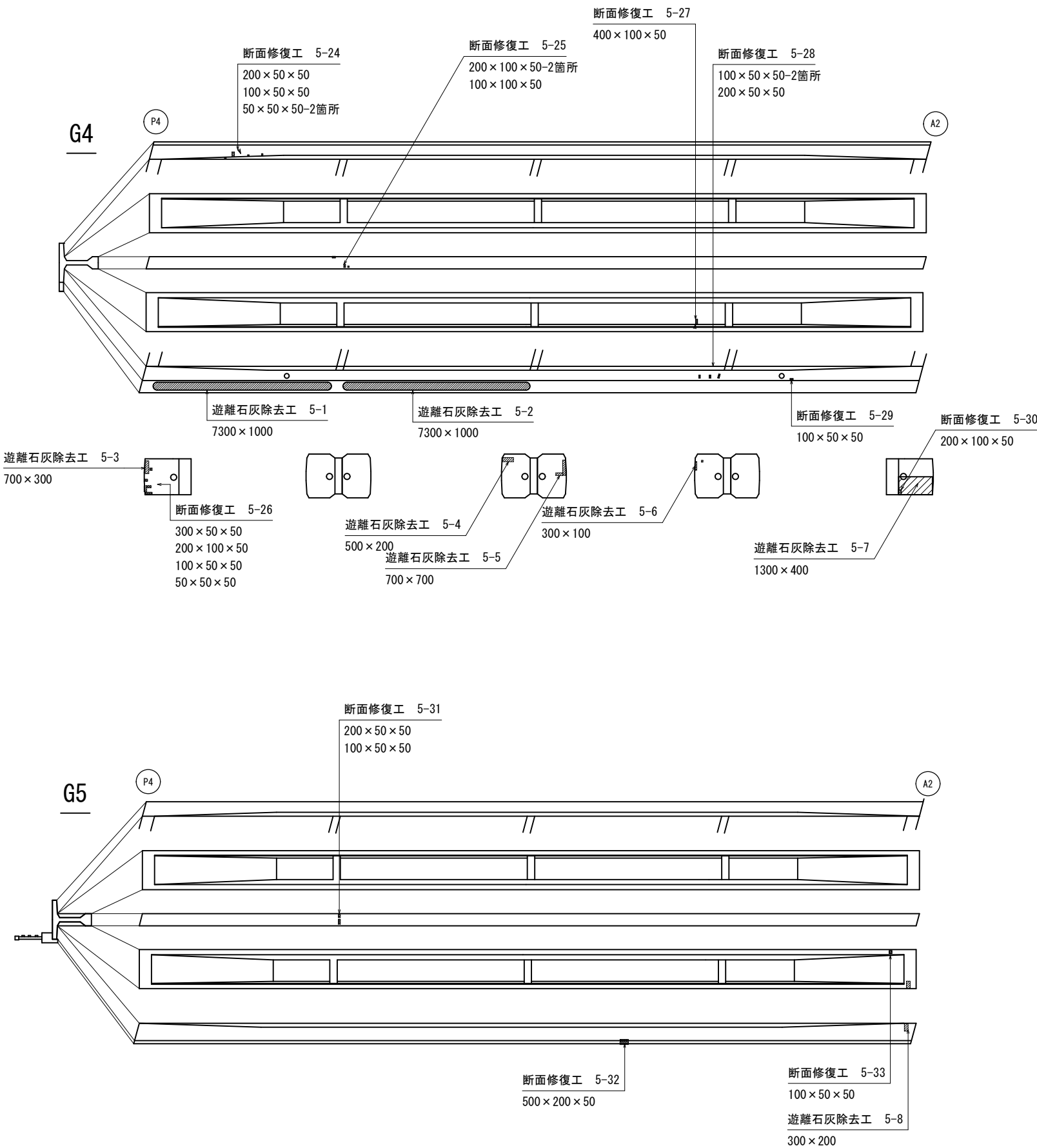
注意事項

- ・本図面は既往資料及び現地簡易計測により計画している。詳細寸法は現地検測により確認する必要がある。
- ・補修範囲等は現地の損傷状況を再確認する必要がある。

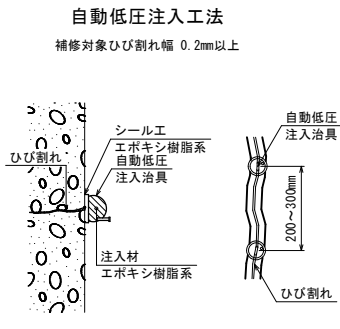
工事名	川向橋修繕工事		
図面名	主桁・床版 補修図 (5)		
作成年月日	令和 7年 月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	7/18
会社名	株式会社 アリヤス設計コンサルタント		
事業者名	八 雲 町		

主桁・床版 補修図 (6)

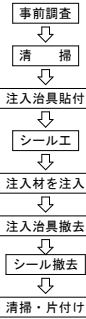
第5径間



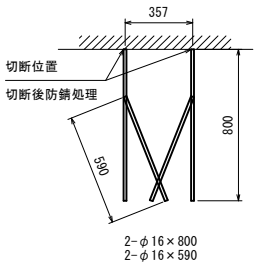
ひび割れ補修工詳細図



施工手順



旧吊り金具撤去図

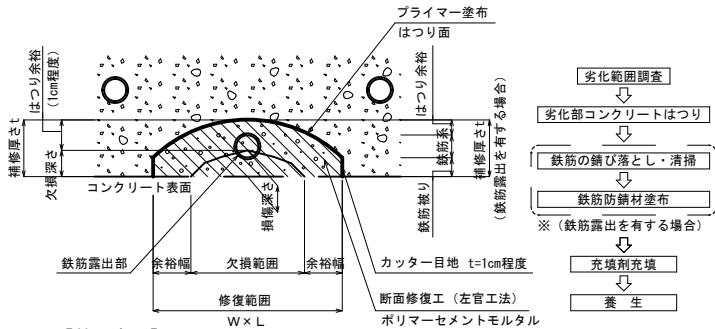


注記)

- 補修工事においては、事前に現地実測を行い再度補修規模を確認のこと。
- ひび割れ注入材はエポキシ樹脂系とする。
- ひび割れ周囲の遊離石灰は除去すること。

断面修復工詳細図

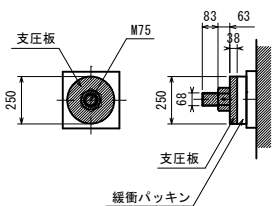
左官工法 (ポリマーセメントモルタル)



【特記事項】

- 図中記載の寸法は現地計測結果によるものであるが、各形状寸法を確認の上施工すること。
- 露出鉄筋の錆落としは、ワイヤーブラシまたはディスクサンダー等によるものとし、浮き錆を完全に除去すること。また、防錆剤の付着性を確保するため、錆落とし後十分に清掃を行うこと。
- 既設コンクリートの脆弱部は深さに関わらず除去するものとし、はつり深さが著しく大きくなる場合に予想される場合には、事前に監督員と協議を行うこと。
- 破砕したコンクリート殻を落下、飛散させないように適宜防護するとともに、適正に処理すること。
- 施工時の外気温が5℃を下回る場合には、適宜、防護養生をおこなうこと。

落橋防止装置 支圧板塗装補修図



支圧板塗装面積数量集計表

部位	形状 (mm)	面積 m <sup>2</sup>
支圧板	$4/\pi \times 0.25^2 + 2 \times 0.25 \times \pi \times 0.038$	0.109
ナット	$M74 = 54.3/1000$	0.054
鋼棒	$0.068 \times \pi \times 0.083$	0.018

2種ケレン 常温亜鉛メッキ塗装

1箇所当りΣ= 0.181

注意事項

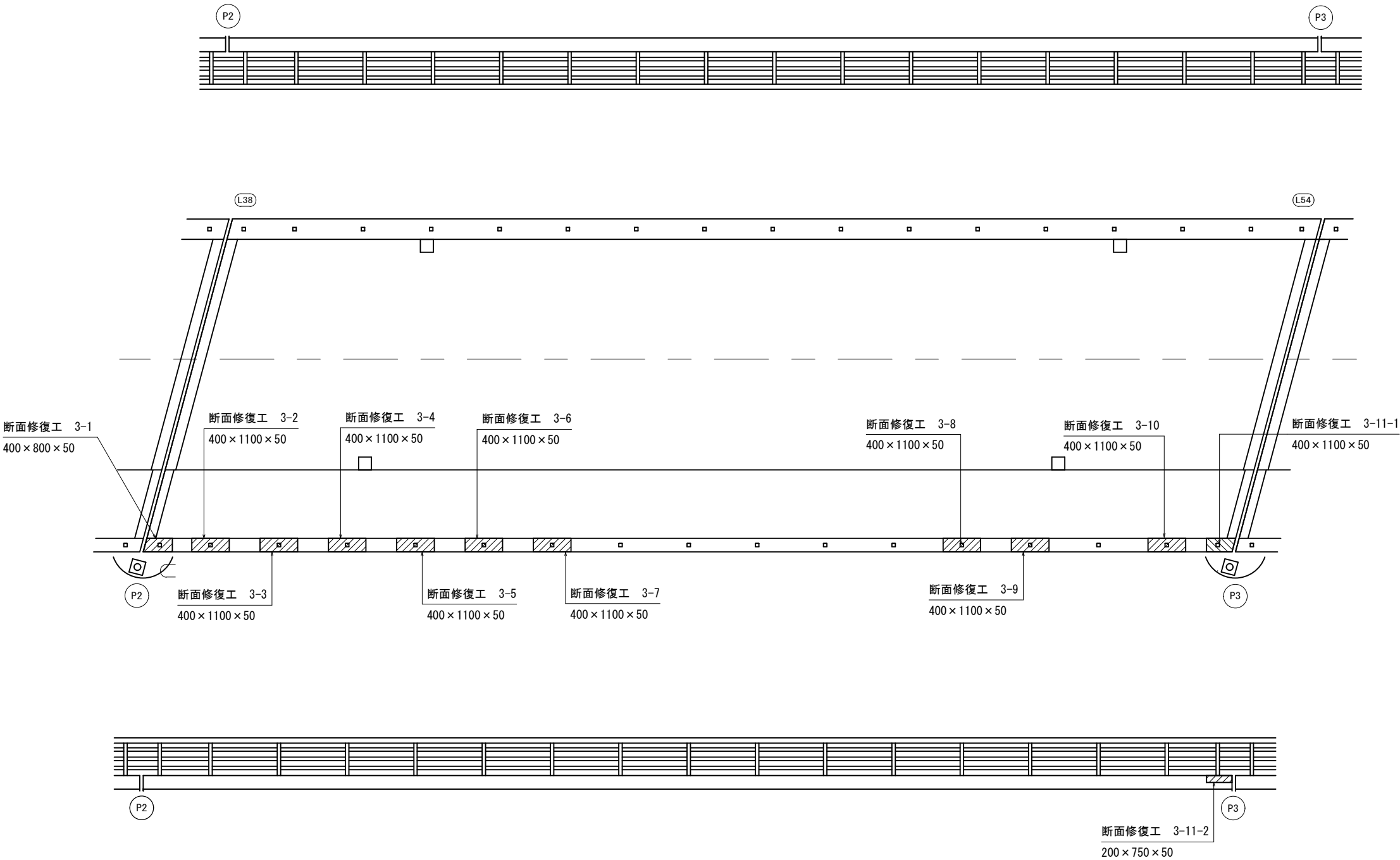
- 本図面は既往資料及び現地簡易計測により計画している。詳細寸法は現地検測により確認する必要がある。
- 補修範囲等は現地の損傷状況を再確認する必要がある。

工事名	川向橋修繕工事		
図面名	主桁・床版 補修図 (6)		
作成年月日	令和 7年 月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	8/18
会社名	株式会社 アリヤス設計コンサルタント		
事業者名	八 雲 町		



地覆 補修図 (1)

第3径間



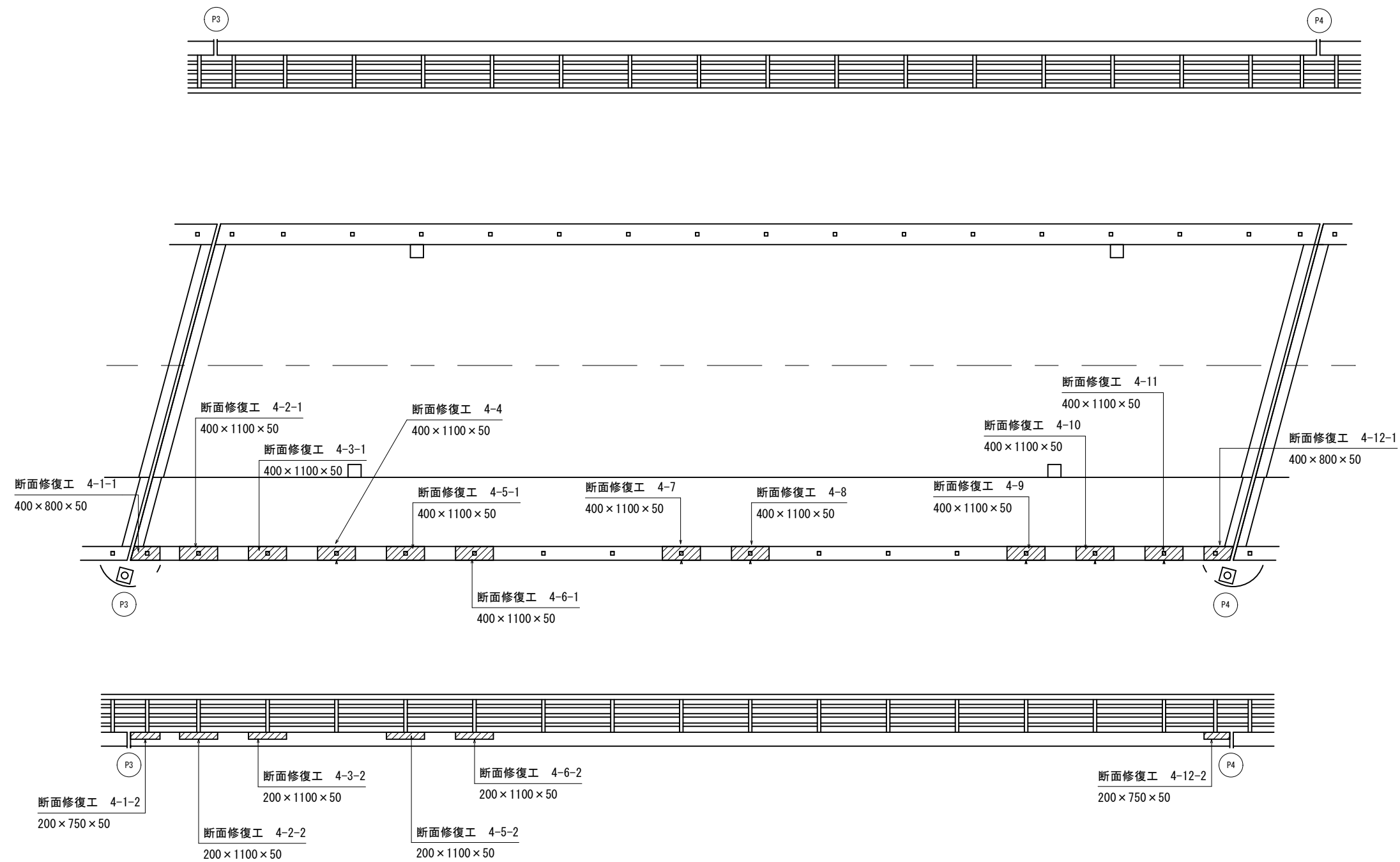
注意事項

- ・本図面は既往資料及び現地簡易計測により計画している。詳細寸法は現地検測により確認する必要がある。
- ・補修範囲等は現地の損傷状況を再確認する必要がある。

工事名	川向橋修繕工事		
図面名	地覆 補修図 (1)		
作成年月日	令和 7年 月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	9/18
会社名	株式会社 アリヤス設計コンサルタント		
事業者名	八 雲 町		

地覆 補修図 (2)

第4径間



注意事項

- ・本図面は既往資料及び現地簡易計測により計画している。詳細寸法は現地検測により確認する必要がある。
- ・補修範囲等は現地の損傷状況を再確認する必要がある。

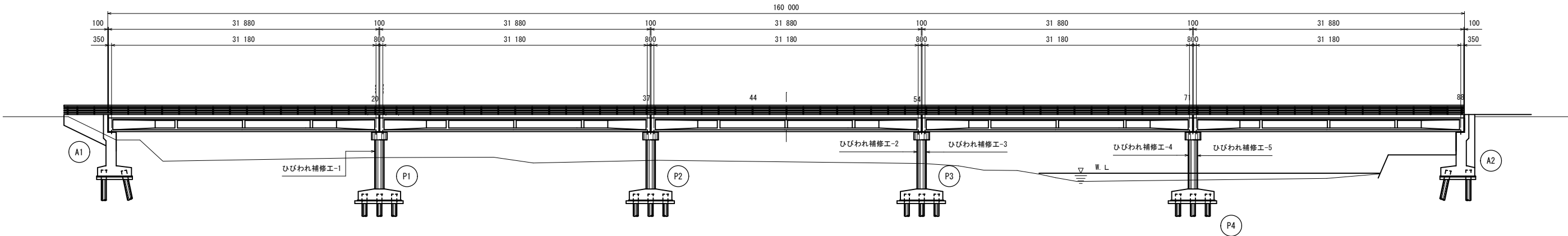
工事名	川向橋修繕工事		
図面名	地覆 補修図 (2)		
作成年月日	令和 7年 月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	10/18
会社名	株式会社 アリヤス設計コンサルタント		
事業者名	八 雲 町		

下部工補修図

ひびわれ補修工

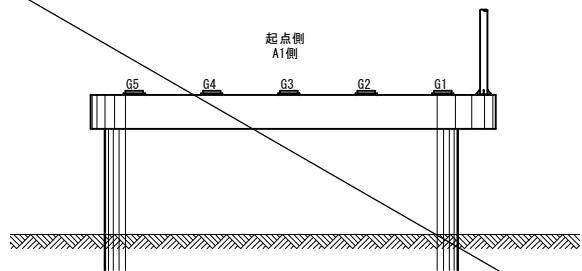
補修位置側面図

S=1:250

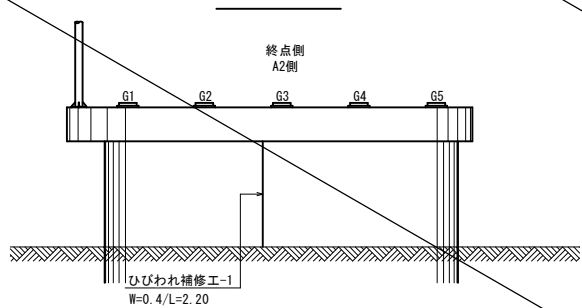


P-1正面図

S=1:50

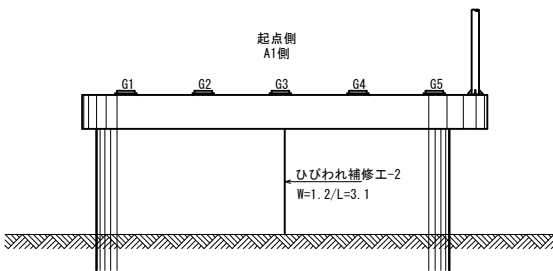


P-1正面図

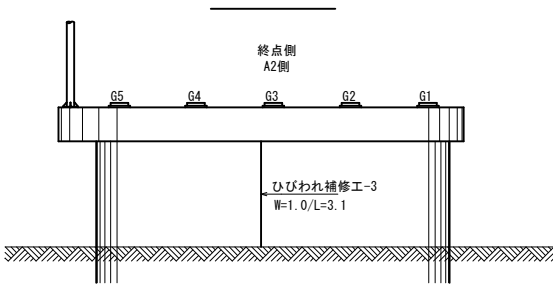


P-3正面図

S=1:50

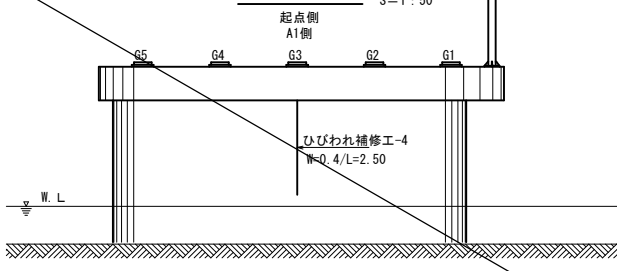


P-3正面図

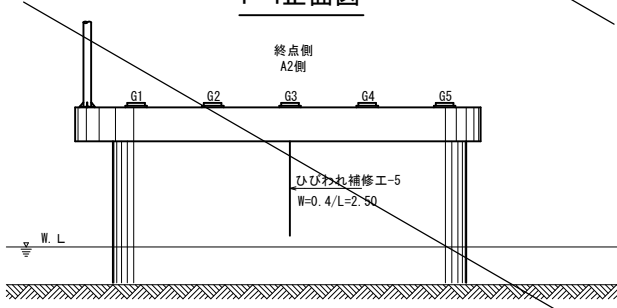


P-4正面図

S=1:50



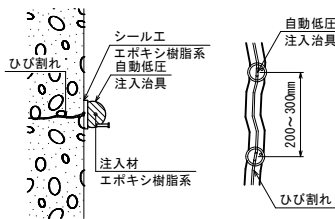
P-4正面図



ひび割れ補修工詳細図

自動低圧注入工法

補修対象ひび割れ幅 0.35mm以上



施工手順

- 事前調査
- 清掃
- 注入治具貼付
- シール工
- 注入材を注入
- 注入治具撤去
- シール撤去
- 清掃・片付け

注記)

- 補修工事においては、事前に現地実測を行い再度補修規模を確認のこと。
- ひび割れ注入材はエポキシ樹脂系とする。
- ひび割れ周囲の遊離石灰は除去すること。

ひびわれ修復工数量集計表

位置	記号	延長 m	幅 mm	深さ mm
P-1	1	2.200	0.4	80
	2	3.100	1.2	350
P-3	3	3.100	1.0	350
	4	2.500	0.4	80
P-4	5	2.500	0.4	80
総延長 =		12.000m		

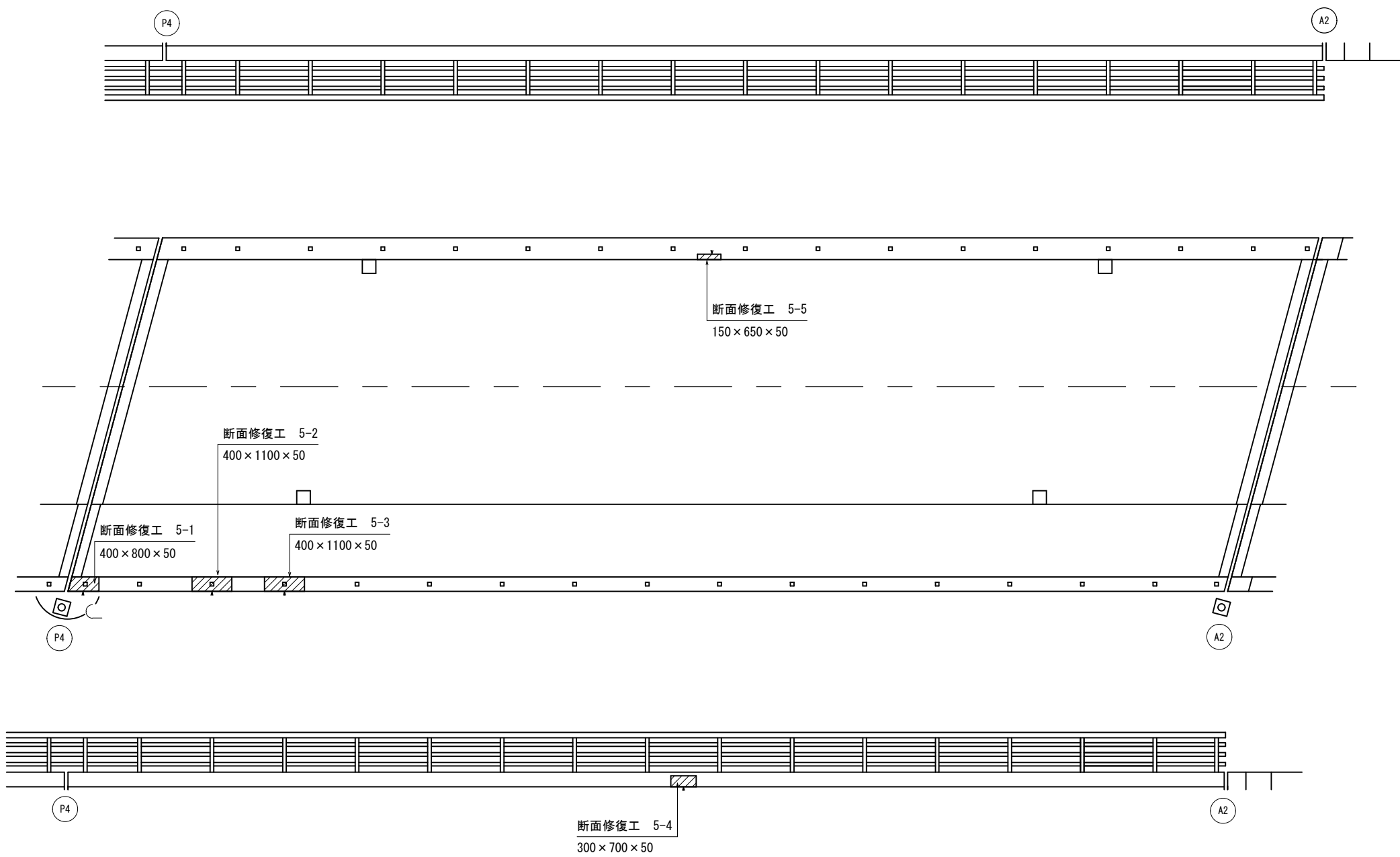
注意事項

- 本図面は既往資料及び現地簡易計測により計画している。詳細寸法は現地検測により確認する必要がある。
- 補修範囲等は現地の損傷状況を再確認する必要がある。

工事名	川向橋補修工事		
図面名	下部工 補修図		
作成年月日	令和 7 年 月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	11/18
会社名	株式会社 アリヤス設計コンサルタント		
事業者名	八 雲 町		

地覆 補修図 (3)

第5径間



注意事項

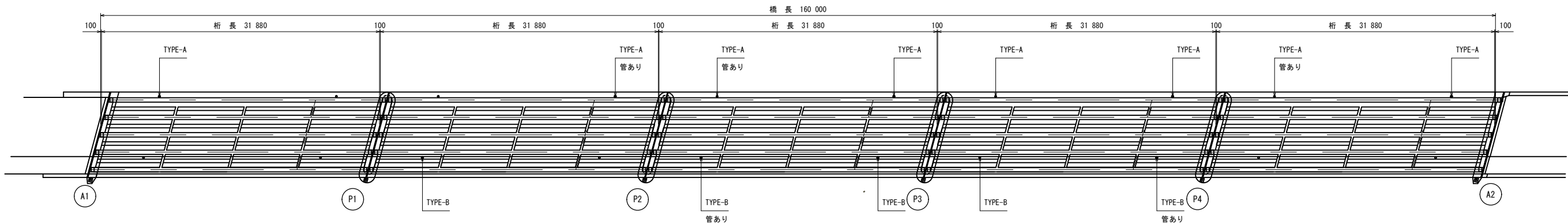
- ・本図面は既往資料及び現地簡易計測により計画している。詳細寸法は現地検測により確認する必要がある。
- ・補修範囲等は現地の損傷状況を再確認する必要がある。

工事名	川向橋修繕工事		
図面名	地覆 補修図 (3)		
作成年月日	令和 7年 月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	12/18
会社名	株式会社 アリヤス設計コンサルタント		
事業者名	八 雲 町		

# 排水管補修図

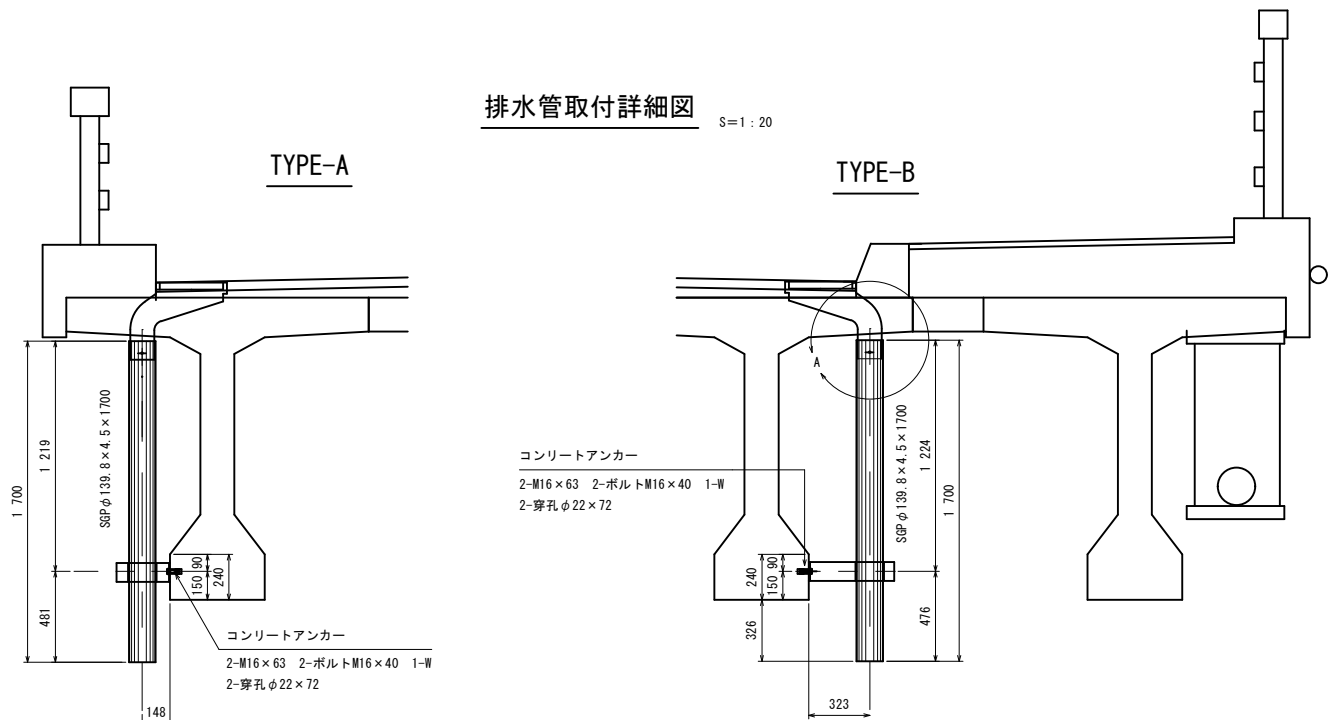
補修位置平面図

S=1:250



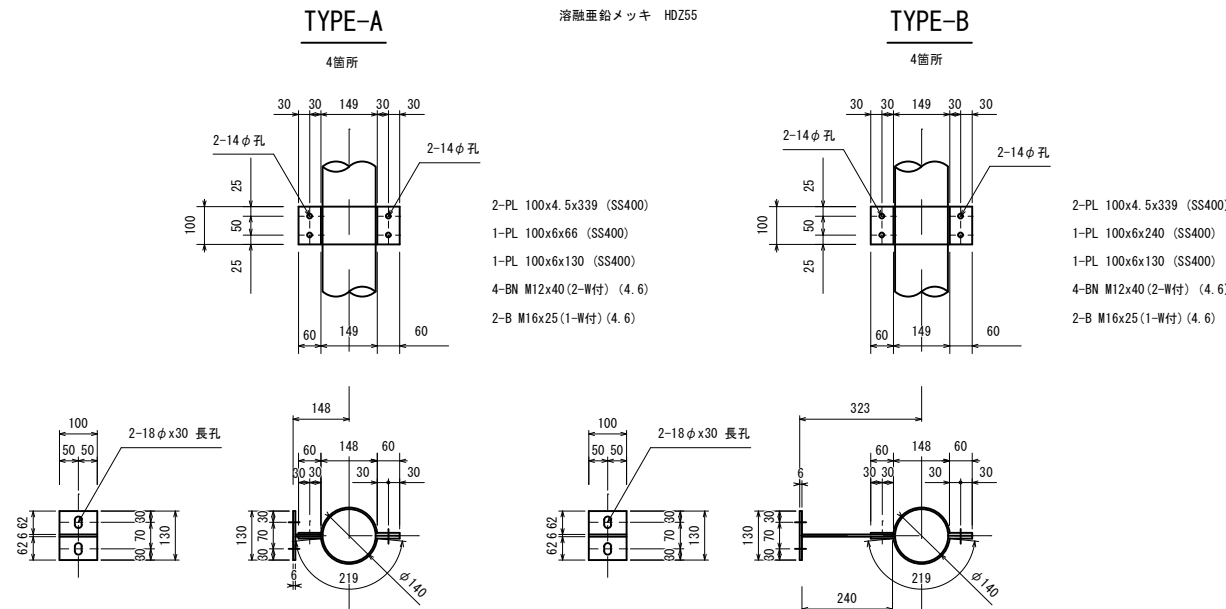
排水管取付詳細図

S=1:20



支持金具詳細図

S=1:10



既設支持金具撤去図

S=1:20

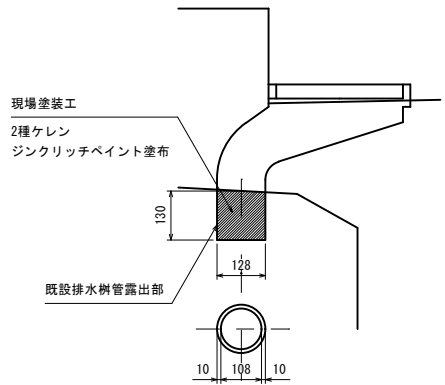


## 注意事項

- 本図面は既往資料及び現地簡易計測により計画している。詳細寸法は現地検測により確認する必要がある。
- 補修範囲等は現地の損傷状況を再確認する必要がある。

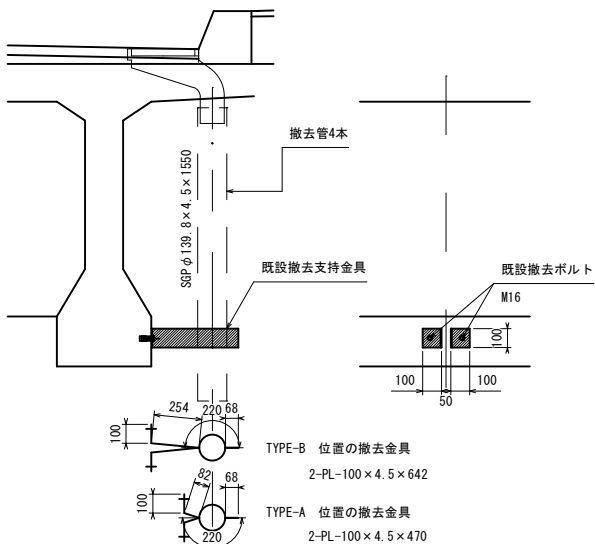
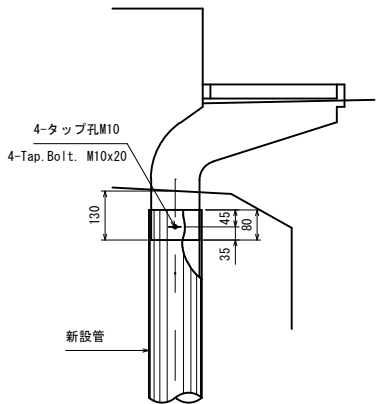
既設排水管処理図

S=1:10



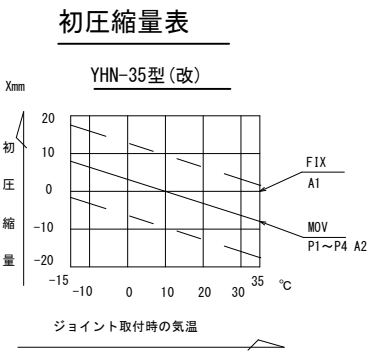
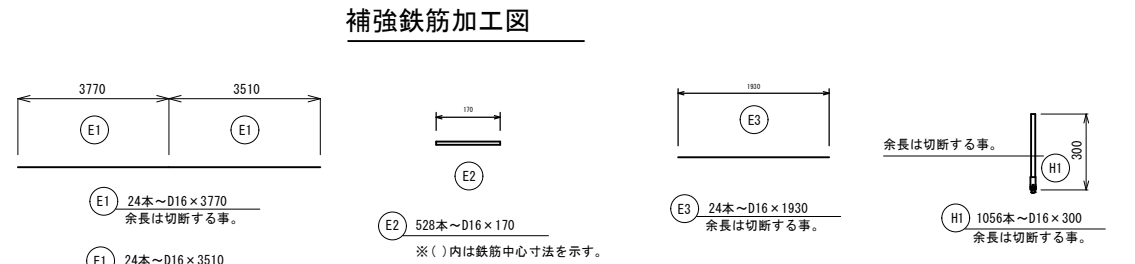
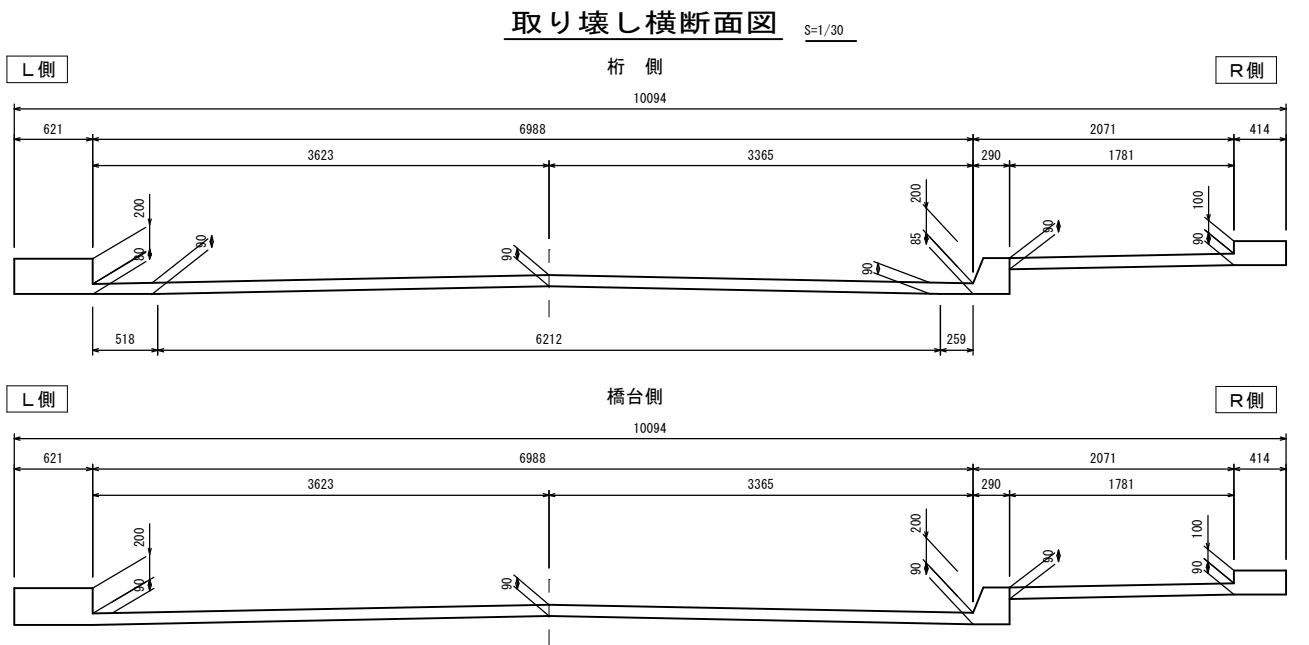
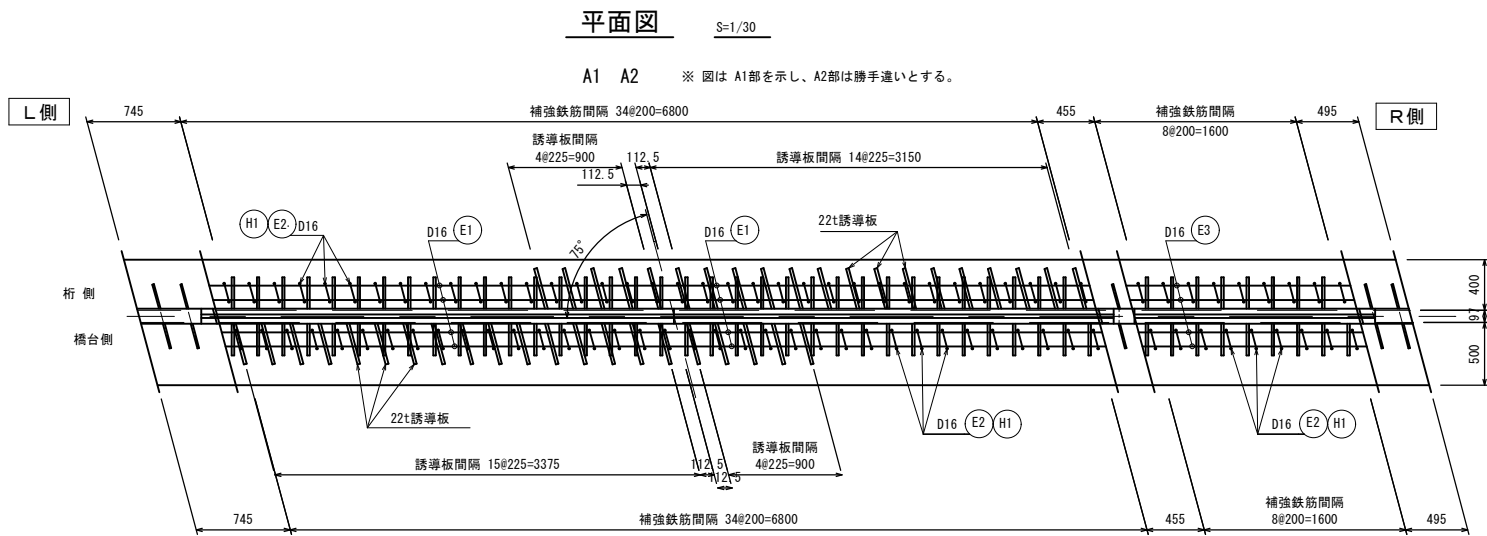
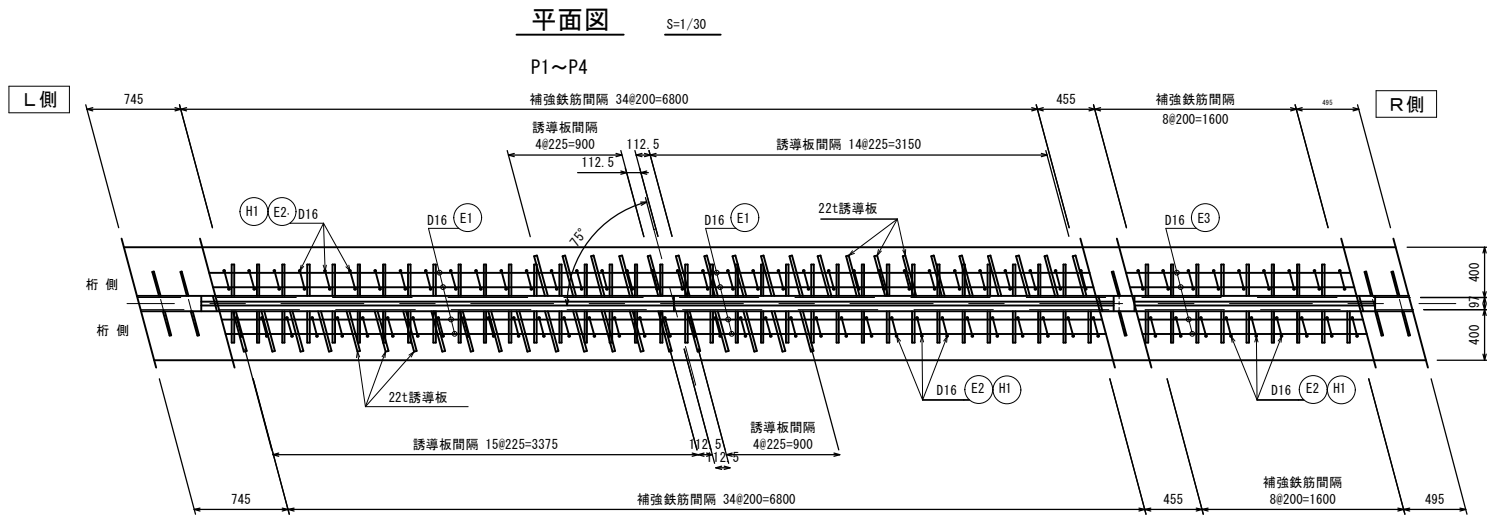
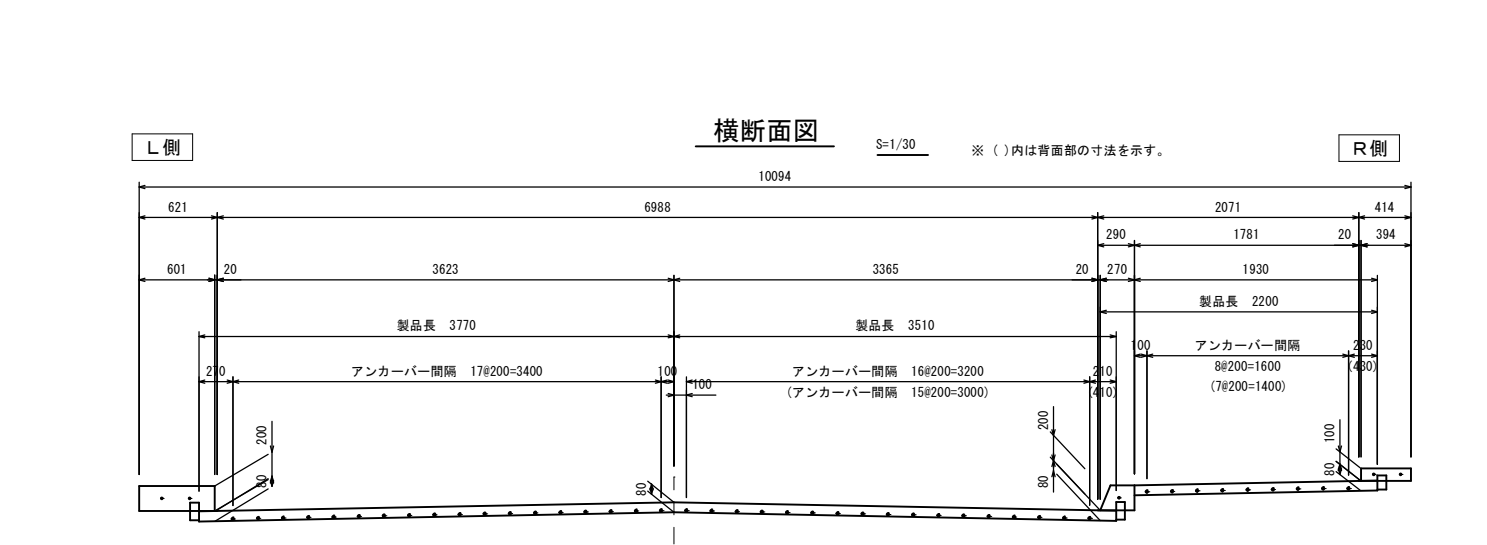
A部 既設排水管接続図

S=1:10



工事名	川向橋修繕工事		
図面名	排水管補修図		
作成年月日	令和 7 年 月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	13/18
会社名	株式会社 アリヤス設計コンサルタント		
事業者名	八 雲 町		

伸縮装置補修図（1）



注意事項

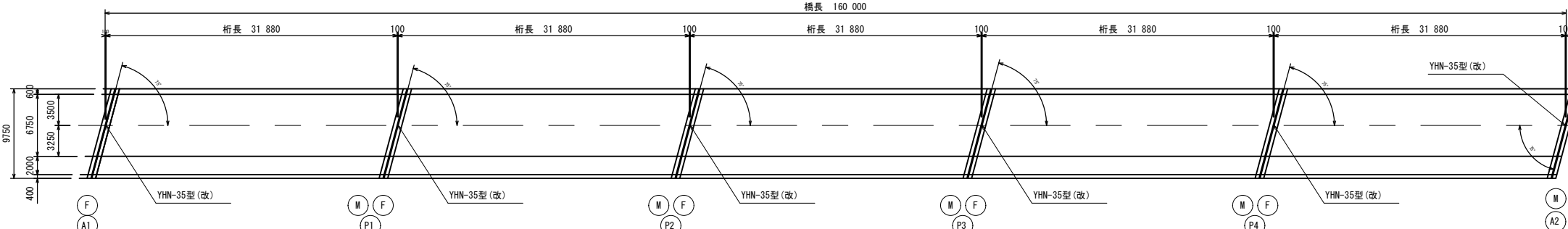
- ・本図面は既往資料及び現地簡易計測により計画している。詳細寸法は現地検測により確認する必要がある。
- ・補修範囲等は現地の損傷状況を再確認する必要がある。

工事名	川向橋修繕工事		
図面名	伸縮装置補修図（1）		
作成年月日	令和 7年 月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	14/18
会社名	株式会社 アリヤス設計コンサルタント		
事業者名	八 雲 町		

## 伸縮装置補修図 (2)

配置図

S=1/300

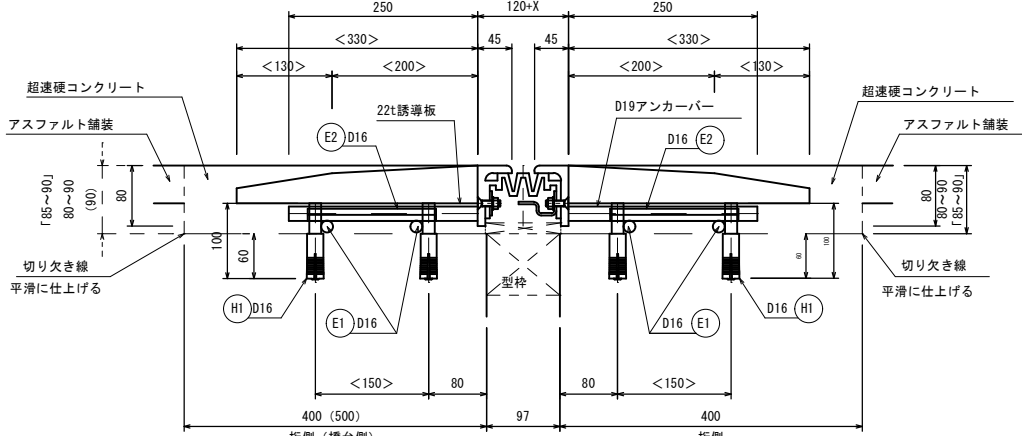


取付断面図

S=1

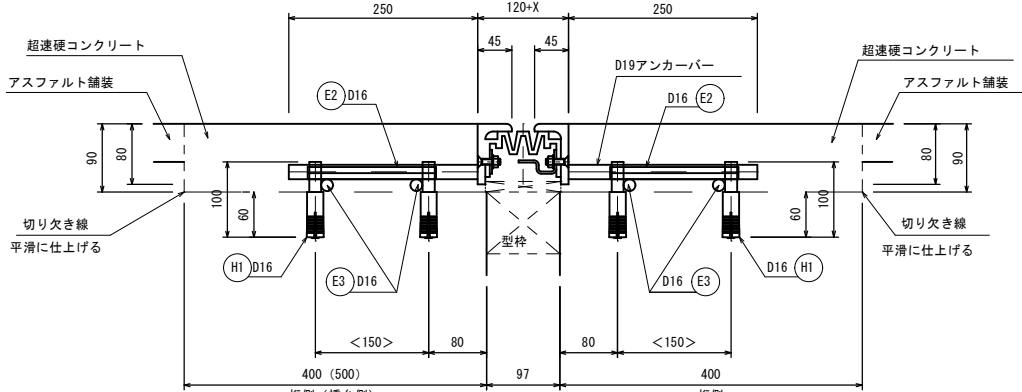
YHN-35型 ( )  
車道部

※ 〈 〉内は橋軸方向の寸法を示す。  
※ ( )内は橋台部の寸法を示す。  
※ 「 」内は縁石側の寸法を示す。



YHN-35型 ( )  
歩道部

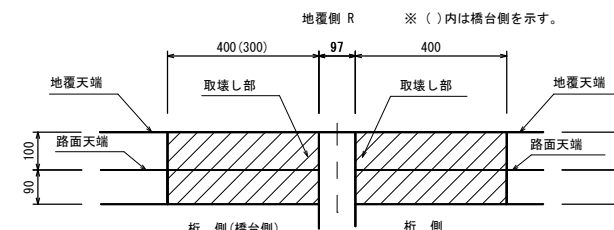
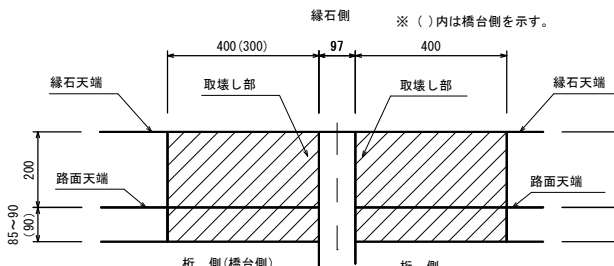
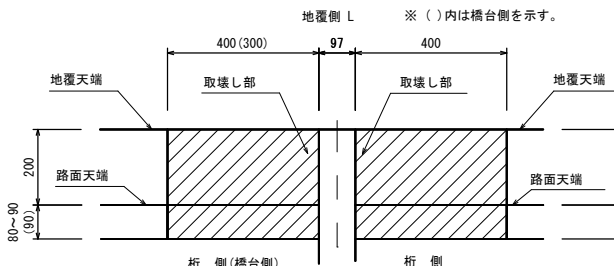
※ ( )内は橋台部の寸法を示す。



## 床板切欠き図

 $S=1$  /

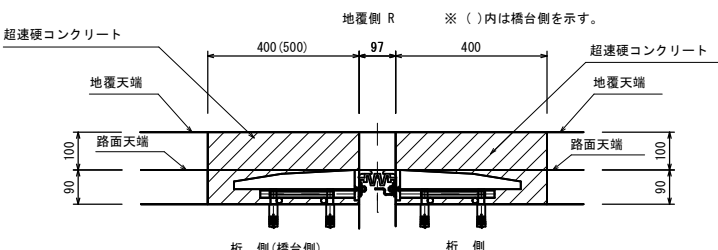
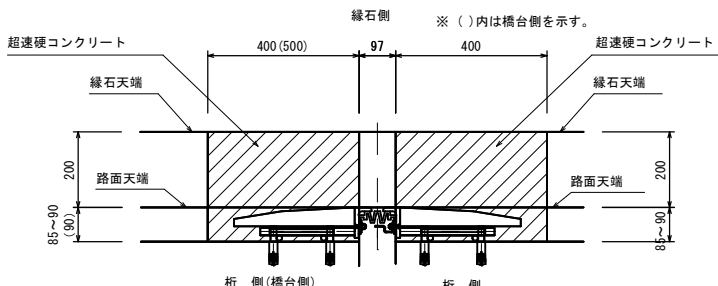
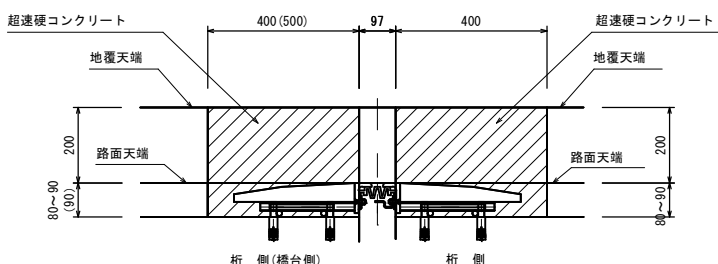
※詳細寸法等は現地検測後決定とする



復旧図

 $S=1$ 

地覆側 L ※ ( )内は橋台側を示す



### 注意事項

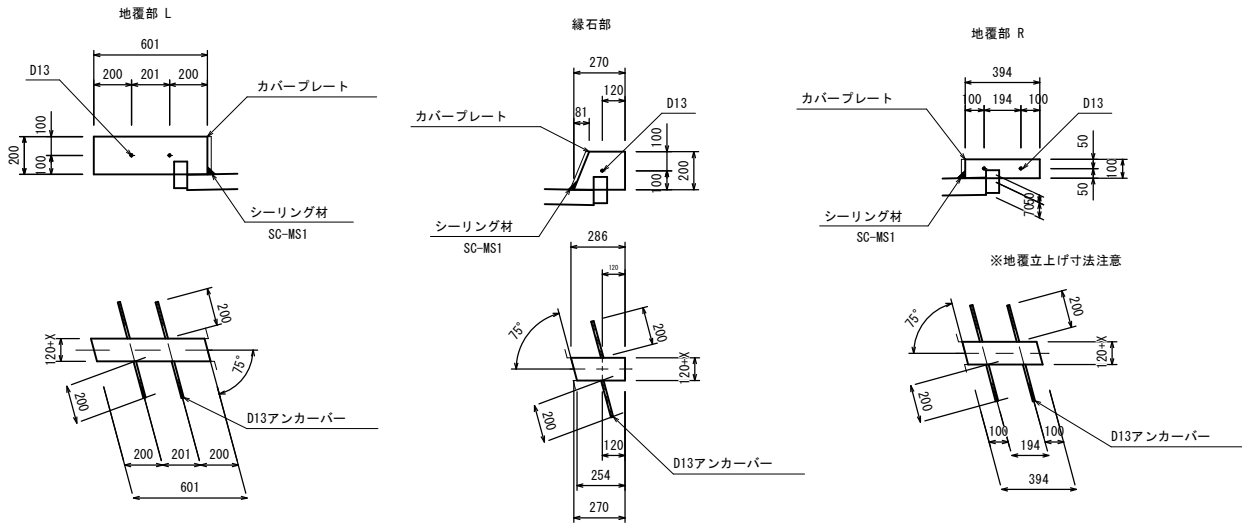
- ・本図面は既往資料及び現地簡易計測により計画している。  
詳細寸法は現地検測により確認する必要がある。
- ・補修範囲等は現地の損傷状況を再確認する必要がある。

工事名	川向橋修繕工事		
図面名	伸縮装置補修図 (2)		
作成年月日	令和 7 年 月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	15/18
会社名	株式会社 アリヤス設計コンサルタント		
事業者名	八 雲 町		

伸縮装置補修図（3）

地覆部詳細図

S=1/20



伸縮装置材料表

型式	単尺	本数	長さ	適用	重量(平均値)
YHN-35型(改)	3770	2	7540	車道部 L	40.8 kg/m
〃	3510	2	7020	車道部 R	41.1 kg/m
〃	2200	2	4400	歩道部 (緑石一体型)	28.4 kg/m
〃	601	2	1202	地覆部 L	
〃	394	2	788	地覆部 R	
合 計			62m850		
誘 導 板	330×50×22t		246枚		
シーリング材	SC-MS1	200ml×6ヵ所		3600ml	320ml/本 4本使用

補強鉄筋材料表

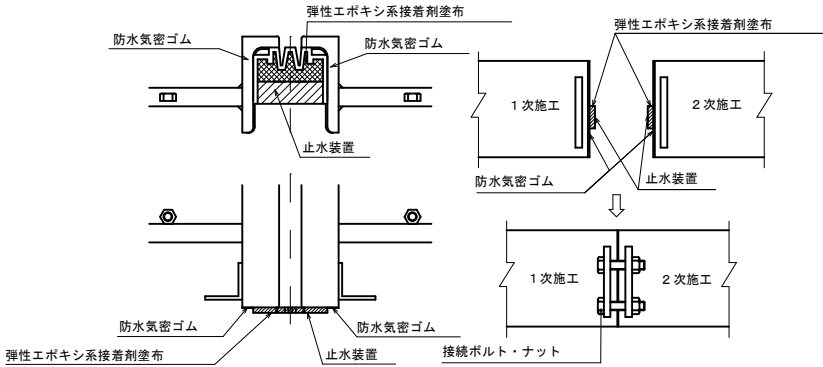
適用	記号	断面	単尺	単重	1本当重量	員数	重量	適用
E1	φ	D16	3770	1.560	5.881	8	47.0	
E1	φ	D16	3510	1.560	5.476	8	43.8	
E2	φ	D16	170	1.560	0.265	176	46.6	
E3	φ	D16	1930	1.560	3.011	8	24.1	
H1	φ	D16	300	---	---	352	---	差筋アンカー
総重量							161.5 kg	

※上記、補強鉄筋は伸縮継手に含まない。現場手配とする

工事仕様

1. H1鉄筋は床版を切欠き後、打ち込むこと。
2. 鉄筋の余長は切断すること。
3. 補強鉄筋の接合部は全て現場溶接とする。
4. 補強鉄筋は全て現場手配とする。
5. 地覆の重なり部はシーリングすること。
6. Xの値は初圧縮量表を参照する事。

伸縮装置継手部



伸縮装置の現場接続方法について

※伸縮装置納入時は車道センターライン（橋梁中心）より一体化する。  
（接続部の両側には止水装置が止水ゴム（伸縮ゴム）の下部に取付けられています。また、緑石側・地覆側の伸縮装置端部には立上止水装置が取付けられています。）

- 止水装置の全面、および立上止水装置の側板外側に弾性エポキシ系接着剤を塗布する。
- 接続ボルトを双方の止水装置が圧着するまで左右均等に締め付ける。
- 緑石・地覆伸縮装置を弾性エポキシ系接着剤を塗布した端部立上止水装置の上から、挟み込む様に取付け、地覆部と本体伸縮装置の接触面を点溶接した後、点溶接側の隙間部分にエポキシ系接着剤を塗布する。

※詳細は、製品付属の「施工要領書」を参照の事。

工事数量表

切 断(車道部 t=50)	6988×2本×3ヶ所	41.93 m
〃 (歩道部 t=50)	1781×2本×3ヶ所	10.69 m
〃 (地覆部 t=50)	(621+414)×2本×3ヶ所	6.21 m
〃 (緑石部 t=50)	290×2本×3ヶ所	1.74 m
合 計		60.57 m
取壊し (車道部 橋台部 t=90)	6988×90×300×1ヶ所	0.19 m <sup>3</sup>
〃 (車道部 桁部 t=80~90, 85~90)	(6212×90+518×85+259×87.5)×400×5ヶ所	1.25 m <sup>3</sup>
(歩道部 t=90)	1781×90×(300×1ヶ所+400×5ヶ所)	0.37 m <sup>3</sup>
〃 (地覆部 L t=280, 290)	621×290×300×1ヶ所+621×280×400×5ヶ所	0.40 m <sup>3</sup>
〃 (地覆部 R t=190)	414×190×(300×1ヶ所+400×5ヶ所)	0.18 m <sup>3</sup>
〃 (緑石部 t=285, 290)	290×290×300×1ヶ所+290×285×400×5ヶ所	0.19 m <sup>3</sup>
合 計		2.58 m <sup>3</sup>
既設伸縮装置撤去	10094×3ヶ所	30.28 m
伸縮装置取付	(3770+3510+2200+601+394)×3ヶ所	31.43 m
超速硬コンクリート (車道部 橋台部 t=90)	6988×90×500×2ヶ所	0.63 m <sup>3</sup>
〃 (車道部 桁部 t=80~90, 85~90)	(6212×90+518×85+259×87.5)×400×5ヶ所	0.25 m <sup>3</sup>
〃 (歩道部 t=90)	1781×90×(500×1ヶ所+400×5ヶ所)	0.40 m <sup>3</sup>
〃 (地覆部 L t=280, 290)	621×290×500×1ヶ所+621×280×400×5ヶ所	0.44 m <sup>3</sup>
〃 (地覆部 R t=190)	414×190×(500×1ヶ所+400×5ヶ所)	0.20 m <sup>3</sup>
〃 (緑石部 t=285, 290)	290×290×500×1ヶ所+290×285×400×5ヶ所	0.21 m <sup>3</sup>
合 計		2.13 m <sup>3</sup>

注 意 事 項

- 施工関連諸計法は、現地実測により決定する事。
- 既設伸縮装置撤去の際は、床版を取り壊さないようにする事。
- 工事発注後は現橋を十分確認の上、数量等を精査の事。

注意事項

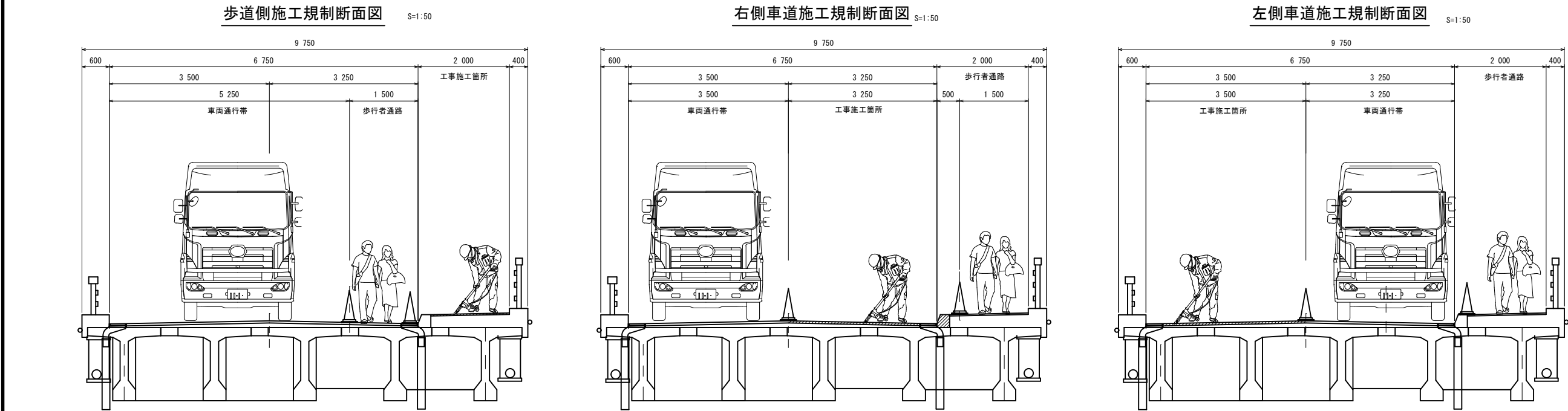
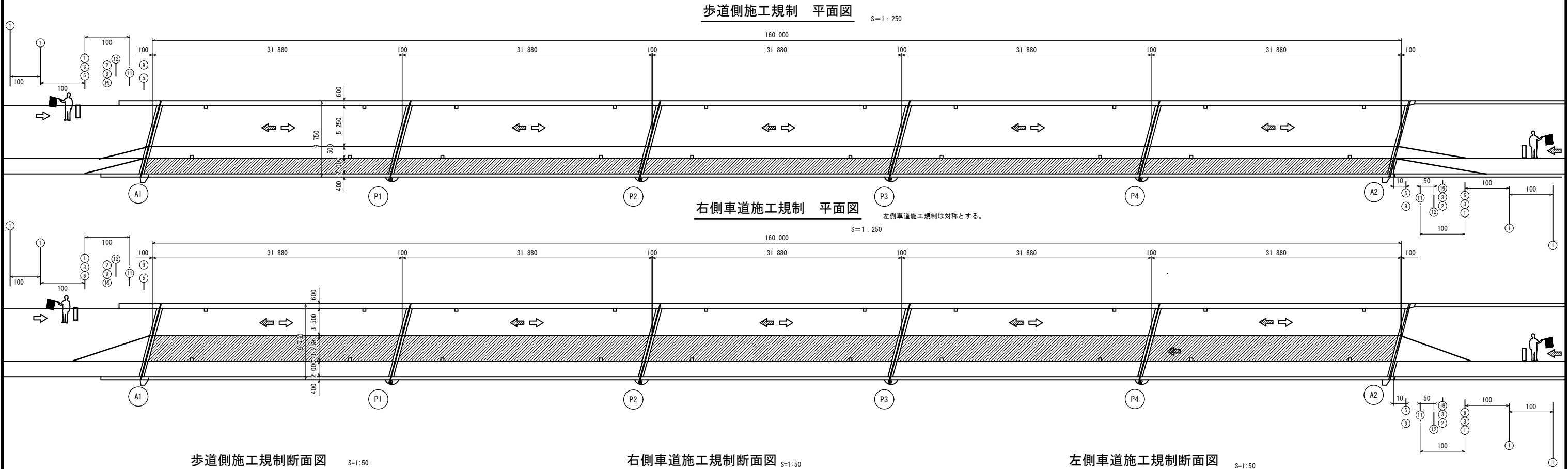
- 本図面は既往資料及び現地簡易計測により計画している。詳細寸法は現地検測により確認する必要がある。
- 補修範囲等は現地の損傷状況を再確認する必要がある。

工事名	川向橋補修工事		
図面名	伸縮装置補修図（3）		
作成年月日	令和 7年 月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	16/18
会社名	株式会社 アリヤス設計コンサルタント		
事業者名	八 雲 町		

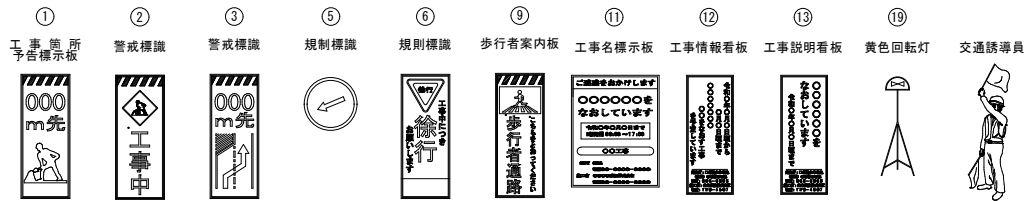




交通規制図（参考図）



安全保安設備  
（参考図）



注意事項

- ・本図面は既往資料及び現地簡易計測により計画している。詳細寸法は現地検測により確認する必要がある。
- ・補修範囲等は現地の損傷状況を再確認する必要がある。

工事名	川向橋修繕工事		
図面名	交通規制図（参考図）		
作成年月日	令和 7 年 月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	18/18
会社名	株式会社 アリヤス設計コンサルタント		
事業者名	八 雲 町		